

石井方式 漢字の覚え方

序編

漢字は知識を運ぶ血液である

国語の力がすべての教科学習の原動力であることは、昔から多くの人々に認められていたが、近年、アメリカで、人間工學研究所が大々的な調査を行ない、科学的にこれを実証したという。

中学生・高校生・大学生から工場勤務者・大会社幹部・社長クラスまで、四十万人の人に對して調査した結果、地位の上下、収入の多少が国語の力と正比例しており、また、学校の成績も同様であることが明らかにされたのである。

このテストで最高点を取ったのは、著名な大会社の社長で、得点は二七二点。幹部級の平均点は一四〇点。課長級は一一四点。係長級は八六点。……このように、地位の上下、収入の多少が、国語の力と全く正比例していたのである。



これは学校でも同じで、医学・工学・法律・経済……その専攻科目のいかにかわらず、この国語のテストで最高点を取った学生が、その学部でもやはり最高の成績を取っていたのである。つまり、『国語力は、学校においても社会においても、成功のための第一の要件である』ことが証明されたのである。

ところで、わが国では、深い意味を持ったことばの多くは漢語である。漢語は、漢字を知らなくては、正確な深い理解は不可能である。だから、わが国で成功するためには、何よりも漢字を数多く、正確に理解することが絶対に必要だと言いうことができる。

ある会社の入試に、「危機一髪」を「危機一発」と書いた者が多かったと言う。漢字をこのように誤って書くということは、そのことばの持つ正しい意味を知らないことによる。

それは単に漢字の知識の有無という、小さな問題ではない。そういう貧弱な国語力では、どんなに有益な書物を読んだって、正しい深い理解はできず、読書から得られるものも、したがって少なくなるから大問題である。

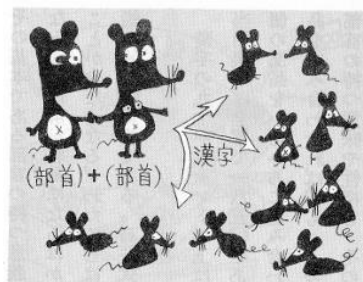
書物から知識を吸収する力は国語力であり、とりわけ漢字力である。だから、学問に志す者は、まずすぐれた漢字力を身につけることに努力することが肝要である。

漢字に強くなる秘訣 ヒケツ

今まで、漢字の学習法と言えば、ただがむしやらの練習による丸暗記しか方法がなかった。これでは、苦勞ばかり多くて効果は少ない。

漢字は、元来、部品とも言つべき『部首』を合理的に組み合わせて作っていったものであるから、その基本である部首の持つ意義や性格をしっかりとつかみ、それを土台にして

体系的に学習していくならば、理解が容易になるばかりでなく、一度学習した漢字はしっかりと記憶にとどまって、忘れることが少なくなる。わたくしは、この合理的、科学的漢字学習法の研究に取り組んで二十余年、最も能率的な学習法である『石井式漢字学習法』を作り上げた。この学習法の大きな特長は、基本的な百数十字の学習で、それに十数倍する漢字を類推して知ることができることである。



漢字の九十パーセント以上は、部首と呼ばれる部品の組み合わせによってできている。たとえば、常用漢字は全部で一八五〇字あるが、それに使われている部首は一九二個しかない。つまり、一九二個の部品をいろいろな組み合わせで、一八五〇字の漢字を作っているのである。実は、一九二個の部品を組み合わせれば、もっと多く、数千字もの漢字を作ること可能である。つまり、

この基本的な部首の持つ意味や性格を、その本質から理解するならば、一八五〇字の常用漢字はおろか、それに数倍する漢字の意味や読み方を推察することができるのである。

こういう性格をもった漢字を、一つ一つ切り離してばらばらに学習していったのでは、覚えるのに骨が折れるばかりでなく、せっかく苦勞して覚えてもすぐ忘れてしまう。今までの漢字学習法は、すべてこういう非能率的な学習法だったのである。漢字は字形が複雑だからむずかしい、とよく言われる。しかし、それは漢字の合理的な構成法を知らない者の言うことである。漢字は、名前こそ『字』であるが、カナ文字やローマ字とは本質的に異なったものなのである。

たとえば、『整』という漢字は、英語になおせば、to put (things) in order にあたる。つまり、『整』の一字に、英語の put, things, order という三つの単語の意味を備えているのである。『父』は put, 『東』は things, 『正』は order の意味をそれぞれ備

えているのである。

『攴』はノ（棒または鞭^{むち}）に又（手）を加えたもので、『手に棒または鞭を持つ』ことを表わした部首である。ゆえに、攴や教は、牛や子どもに対して鞭をふるう意味の字であることがわかる。束は木と〇（なわで木をたばねる形）とで、『木のたば』を表わした字である。止は一（線）と止（足の裏の形で、とどまる意）とで『止まるべき線に止まる』こと、つまり『ただしい』という意味を表わした字である。『木を束ねると、とび出た所、ひっこんだ所ができて、両端が不ぞろいになる。そこでとび出た所を棒でたたいてひっこめ、両端がきちんとそろうようにする』ことが、整^{セイ}だということがわかる。

この整^{セイ}のように複雑な形をした字でも、簡単ないくつかの部首に分解することができる。その部首について正しい知識さえあるならば、それによって組み立てられている漢字のうち、最も重要な意味を表わす正^{セイ}がこれを表わしているのである。

漢字の構造

漢字のでき方については、昔から次の四つにまとめられている。

①象形 形を象（かたど）るという意味の字で、形のあるものについて、それをスケッチ[・]に描いた、言わば絵文字である。

例 日・月・山・川、

②指事 形を備えていない抽象的な事からについて、その事を符号的に指（さ）し示す[・]という意味のことばである。

例 一・二・上・下

③会意 意味を会わせるという意味のことばで、象形や指事では表わせない事がらや深い思想を、二つ以上の象形・指事字の組み合わせによって表わしたもの。

【例】明・休・信・東

④形声 形と声との両面を備えた文字という意味のことばで、形とは実体、つまり意味を、声とは発音をさす。表意の部首と表音の部首とから成る。

【例】儉・險・検・験

象形・指事が基本で、それを組み合わせたのが、会意・形声である。このうち、形声は漢字全体の九十パーセント以上を占めているので、漢字学習の秘訣は形声文字の学び方にあると言いうことができる。

漢字を、その本義と異なった意味に使うことがある。これを転注・仮借と呼び、象形・指事・会意・形声と合わせて“六書”と呼んでいる。

⑤転注 車が転々ところがって元の所から離れ、川が流れ流れて海に注ぐように、漢字の本義が移ることを表わしたことばである。

【例】“楽”は楽器の象形で、“楽器”が本義だが、楽器によって演奏される“音

楽”という意味に転ずる。また、音楽を聞けば“楽しい”ので、“快樂”という使い方が生まれた。

⑥仮借 カシヤ 漢字の本義に関係なく、その発音を仮に借りるという意味のことばで、そのことばをうまく表わせない場合に代用として行なわれるものである。

【例】数字の十を表わす文字がうまく作れないので、同音の“十”（針の本字で針に糸を通した象形字。音はシン。数字の十も古くはシンであった）“を借りてこれを表わした。（そのため“はり”は金を加えて針となった）拾（ひろ）う”を数字の十の意味に使うのも仮借である。

部首の名称と役目

漢字の大部分は二つ以上の部首の組み合わせによってできているが、その組み合わせ方に次の七種類がある。



左右に分けられる場合、左の部分を扁（へん）と言う。形声字の場合は、扁は形（意味）を表わすことが多い。

イ（人扁）人の意味……仕・休・作
 王（玉扁）玉の意味……球・珠・理
 卩（小里扁）崖の意味……陸・防・院
 ネ（示扁）神の意味……神・社・礼



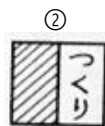
βは、旁に用いられる「大里」と同じ形なので、「小里」と呼ばれる。しかし、意味は全く似ても似つかぬ「崖」である。したがって、石井方式では「崖扁」と名づけているが、本書では世間の誤った名称に従った。βが左にあるか、右にあるかで、意味が全く異なることに注意すること。ただし、「隣」はもと「鄰」であって、これは「大里」である。これだけは例外。

ネ（衣扁）衣類の意味……初・複・補
 忄（立心扁）心の意味……性・情・快
 貝（貝扁）財貨の意味……財・貯・購
 金（金扁）金属の意味……銀・銅・鉄
 月（月扁）月の意味……朧・跳・朏
 月（肉月）肉体の意味……腹・腸・腦
 禾（ノ木扁）稲の意味……稻・秋・種
 犛（獸扁）獸類の意味……狩・犯・狂
 巾（巾扁）衣類の意味……帆・帽・幅
 彳（行人扁）道の意味……行・役・後
 氵（三水）水の意味……海・湖・波



同じ「月」でも、月の意味の場合には、「月扁」と呼ぶが

肉体の意味の場合は「肉月」と呼ぶ。これはもと「肉」だったのが省略され変形して「月」という形になったからである。ほかに、「舟」が省略変形して「月」になったものもあり、これを「舟月」と呼ぶ。「朕・前・朝」の月は「舟月」である。



左の扁に対して、右は旁と言
う。形声字の場合、扁が多く

“形”を表わし、旁は“声（発音）”を表わすが、次の旁は“形”を表わす。

頁(大貝)頭の意味……………頭・顔・額

𠃵 (大里) 邑の意味…………… 都・郡・郷
 おおざと

ミ(三旁)飾の意味……………形・彫・杉

佳（旧鳥）鳥の意味……雄・雑・難

リリットウ(立刀) 刀の意味……………判・別・創

力（力）ちから 努力する意味………勤・動・励

欠(欠) あくび 口を開く意味……歌・飲・吹

又(ル又) るまた 武器を持つ意字……殺・役・殴

父(ノ文) のぶん 鞭を持つ意味……政・教・牧

これらの旁の場合は、多く扁が音を表わす

が、
杉^{サン}
牧^{ボク}
のように旁が音を表わす例

もある。



上と下とに分けられる場合、上の部分を“冠^{かんむり}”と言う。また“頭^{かしら}”と呼ぶものもある。扁と同じく意味を表わすものが多い。

六（ウ冠）家の意味……………家・安・客
うかんむり

穴あな(穴冠) 穴の意味……………空・究・窓

++ (草冠) くさ 草の意味……………草・花・英

竹（竹冠）竹の意味……筆・管・等



頁は、貝に似た字形

お
お
が
い

なので大貝と呼ばれるが、意

味は全くこれに關係ない。鼻（自が本字）を中心とした顔、もしくは頭を意味する

部首。石井方式では“顔旁”かおづくりと呼ぶ。

β は、旁では大里の名のとおり

“町”の意味を表わす部首。邑まちの略形

の変形。

𪗇 は鳥の古い形。鷄も古い形は鷄。

欠は、で大きな口を開いてあ

雨(雨冠) 氣象の意味……………雪・雲・電

𠂔(発頭) 両足をそろえた形……………発・登・癸

𠂔(老頭) 老人の意味……………老・考・孝



下の部分は「脚」と言う。また「𠂔」と呼ぶこともある。冠が意味を表わすときは脚が音を表わすが、次の脚は意味を表わす。

儿(人脚) 人の意味……………兄・光・先

皿(皿) 容器の意味……………盛・益・盟

灬(連火) 火の意味……………照・熱・然

小(下心) 心の意味……………恭・慕

氷(下水) 水の意味……………泰・求

儿・灬・小・氷は、それぞれ、人・火・心・水の変形したもので、古い字体では全く同

じ形であつた。



上から下に垂れ下がった形のものを「垂」と言う。扁と冠とを兼ねたような形をしている。次の垂は、意味を表わす。

厂(雁垂) 崖の意味……………原・厚・圧

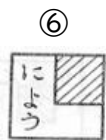
广(麻垂) 広い家の意味……………店・府・庭

疒(病垂) 病氣の意味……………病・痛・疲

戸(戸垂) 戸の意味……………肩・房・扇

尸(屍) 人の意味……………居・屈・属

尸は古い形が「𠂔」であるから、人がからだを伸ばして楽にいる形を表わしたものである。「尸」が意味を表わし、「𠂔」がその音を表わす。居は楽にいる意味。屈は、人外に出るとき、身を「かがめる」意味。昔は出入口が小さかったからである。会意字。



⑥ 扁と脚とを兼ねた形をしているものを「**遶**」と言う。遶とは「**ど**りま^{ニョウ}」という意味の字である。次の遶は意味を表わす。

進^{シンニョウ} (進遶) 道を行く意味……進・送・近

延^{エン} (延遶) 遠く行く意味……延・建・廷

走^{ソウ} (走遶) 走る意味……起・越・趣

走遶の字は走から書き始めるが、進遶と延遶とは旁を先に書いてから遶をあとに書く。走は「**走** (土)」が「**は**しる」意味を表わす。土と区別するために「**止** (あし)」を加えた。



⑦ 外側を囲むような形をしたものを、「**構**」と言う。「**𠔁**」や「**𠔂**」のように三方を囲んだもの、「**𠔃**」や「**𠔄**」のようなものも構と言う。次の構は意味を表わす。

口 (国構) 囲む意味……国・団・團

匚 (箱構) 箱の意味……医・匪・匠

門 (門構) 門の意味……間・聞・関

气 (氣構) 蒸気の意味……氣・氛

行 (行構) 道の意味……術・街


戈 (戈構) 武器の意味……我・戒・或

弋 (式構) 標識の意味……式・式

勹 (包構) 包む意味……包・勹・勹

行は、古い形が「**𠔁**」で、道 (十字路) を表わしたもの。気は、古い形が「**𠔁**」で、蒸気の上がる形を表わしたもの。戈は、古い形が「**𠔁**」で「**ほこ** (やりの類)」の形を表わしたもの。弋は、「**𠔁**」で地上に立てる小枝の目じるしを表わしたもの。戈と弋は、

混同しやすいが、意味をよく考えて使えば、誤ることは少ない。

ㇿは、で、人が抱きかかえる形を表わしたもので、の本字である。

書き取りの採点基準

昭和二十四年四月二十八日付け官報、内閣告示第一号『当用漢字字体表』の「まえがき」に次のように書かれている。

〔使用上の注意事項〕

二、この表の字体は、これを筆写の標準とする際には、点画の長短・方向・曲直・つけるかはなすか・とめるかはね又ははらう等について、必ずしも拘束しないものがある。そのおもな例は次の通りである。

(一) 長短に関する例

雨雨 商商 戸戸 無無

(二) 方向に関する例

風風 比比 仰仰 糸糸 年年

(三) 曲直に関する例

了了 手手 空空

(四) つけるかはなすかに関する例

又又 文文 月月 果果

(五) とめるかはらうか、とめるかはねるかに関する例

奥奥 隊隊 公公 木木 来来 牛牛 糸糸

(六) その他

北北 入入 令令

なお、文部省編『総合当用漢字表』には、

一、当用漢字字体表の字体は、活字字体のもとになる形で示してあります。これを筆写の上に適用する場合には、漢字の識別に影響しない限り、点画の長短・方向・曲直・つけはなし・または、とめるかはねるかなどの細部については拘束しません。たとえば――

とあって、その中に右の用例のほかに

「事」を「事」と書いてもさしつかえありません。
「雪」を「雪」と書いてもさしつかえありません。

とあり、

要は、その字の骨組みである点画の組み合わせを誤らなければよいのです。

と書かれている。昔から、漢字は他の字と混同しないかぎり、点画にはおうようであった。漢字とはそうあるべきものである。ところが、このごろの教師は、事を事と書いたり、雪を雪と書いたりしたら誤りとする。これは、漢字使用の伝統から言っても文部省の方針から言っても行き過ぎであり、法令違反でもある。

こういう厳格な書き取りは法令違反であり、あってはならないのであるが、現実には厳格な教師がなかなか多いので、受験生諸君にとっては気の毒だが、字体表に従って書く習慣をつけ、字体表どおりに書いて、減点されることのないようにすることが賢明である。いくら正しいと言っても、減点されてはつまらないことから。

一日も早く、世の教師が漢字について正しい認識を持つよう希望するしだいである。

筆順の正誤について

漢字には筆順がある。それに従って書けば書きやすく、また、書かれた字の形も整う。だから、筆順に従って書くことが能率的なこととなる。

しかし、筆順は、字によっては三とおりも四とおりもあるのであって、ただ一つだけが正しく、ほかは誤りだというようなものではない。

ところが、昭和三十三年三月三十一日に、文部省から『筆順指導の手びき』が公布されると、それには教育漢字の各字について一種類の筆順しか書かれていないため、それと異なる筆順はすべて誤りだと思いつ込んでいる教師が多い。

たとえば、右は、ノ一口となっているため一ノ口と書けば誤りとする教師がいる。これは、先ほどの字体の問題と同じく、行き過ぎであり、しかも法令違反なのである。

という訳は、文部省の『筆順指導の手びき』の初めにある「本書のねらい」には、

もちろん、本書に示される筆順は、学習指導上に混乱をきたさないようにとの配慮から定められたものであって、そのことは、ここに取りあげなかった筆順についても、これを誤りとするものでもなく、また否定しようとするものでもない。

と明記されているからである。どうも現場の先生がたは、せっかちで、たいせつな「まえがき」を読まないで指導にあたるものだから、字体の場合でも筆順の場合でも、誤りを犯し、学生・生徒諸君を不当に苦しめているのである。これは一日も早く是正されたいことではあるが、今の諸君は、めんどりでも、字体の場合と同様、筆順の場合も、ただ一つの『手びき』の筆順による書き方を身につけることが賢明である。